

パネルシアターとペープサートの指導法についての考察

—鹿児島市内の保育園における実践研究—

Teaching Methods for Panel Theater and Paper Puppet Theater
— Research Practice in Nursery Schools of Kagoshima City —

松下茉莉香・平嶋慶子

Marika Matsushita, Keiko Hirashima

鹿児島女子短期大学

子どもの成長を支える児童文化財の中でも、パネルシアターやペープサートは、瞬間的な転画と仕掛けを含む多様な動きが魅力で、対話しながら即時的に演じたり、子どもと活動に取り組める事から、幼児・保育者間のコミュニケーションツールとして有用な教材である。本稿では子どもにとって効果的な教材作りや指導法を模索する事を目的に、本学学生への指導と保育現場での実践を行った。事前指導では各児童文化財の主な表現内容、制作方法や演じ方を指導する事で、特徴を押さえた制作物や操作方法の基本を習得する事が出来た。それを踏まえ数回発表の場を設ける事で、筆者らや学生間で改善点について意見交換が出来、表現を深化させる事が出来た。また現場保育士の意見や、実践VTR分析を振り返りに活用する事で、子どもの実態に応じた演じ方や制作物の在り方、問いかけや環境構成等の具体的な配慮が明確になり児童文化財の活用方法を考察する事が出来た。

Key words : 児童文化財、パネルシアター、ペープサート

1. はじめに

児童文化財とは、広義には子どもの生活に直接・間接的に影響を与える全ての文化事を指すものであるが、一般的には玩具・遊具、遊び、お話、本（絵本・児童文学）、紙芝居、児童劇、人形劇、指人形、影絵、パネルシアター、ペープサート、映画、テレビ、音楽、歌を指し、近年ではコンピューターや漫画といったニューメディア等も加えられている。この児童文化財はいずれも、大人が子どものために用意した文化財も、子どもが自分の生活をより楽しくするために創りだした文化財も含む、幼児の心身の発達に深い関わりのあるものである。¹⁾

その中でも、現場でよく用いられている児童文化財には、パネルシアターやペープサートがある。

パネルシアターとは、布と布を付着させて話を見せる「フランネルグラフ」や、フェルトに似たボントンという布を用いた「ボントン絵」を改良し、1973年に古宇田亮順によって創案されたコミュニケーション型の児童文化財である。具体的には、毛羽立ちの良いフランネル地を貼ったパネル板を舞台とし、そこに文字や絵を描いたPペーパーを貼つ

たり外したりして、物語や歌等を展開する表現方法である。また、パネルシアターの表現内容は、童話や歌遊びだけでなく、クイズやゲームなどの言葉遊びから、手遊びまで多様である。さらに、この児童文化財は、絵と演じ手の生の声による語りかけや歌を取り入れることで、話進めていくものであるため、子どもは内容に興味を持ちやすく、集中して見る事が出来る、魅力的な教材である。²⁾⁴⁾

次に、ペープサートは、ペーパーパペットシアター（紙の操り人形劇場）が語源とされており、もともと明治末期頃に親しまれてきた「写し絵」から派生した歴史ある児童文化財である。この「写し絵」は、ガラスに染料で絵を描いた種板と呼ばれるスライドに、映写機を用いて絵を映し出し、観客に見せた寄席芸能の一つである。これが明治中期になると、種板の絵を紙に描き、転換しやすい様、紙の間に竹串を挿した紙人形で芝居を演じる形に変化していったものである。さらに明治末期から昭和にかけて、紙人形が芝居をすることから「紙芝居」や「立絵芝居」と呼ばれ、寄席や街頭だけでなくテント小屋等でも、紙芝居と人形劇の要素を含んだ子供向けの娯楽として盛んに演じられ、

1947年頃に永柴孝堂により絵人形の作り方や演出法が考案されたことで、現在も幼児の保育・教育に欠かせない児童文化財として発達していったものである。³⁾⁵⁾ また、このペープサートは子どもと共に製作することが容易な上、操作も手軽にできる。そのため、手作りの紙人形を使って劇遊びに展開したり、絵人形を通して子ども同士や保育者との会話を楽しむことが出来る教材である。

本稿では、児童文化財の中でも保育や教育の場面で扱われることの多いパネルシアターとペープサートについて取り上げ、子どもにとって効果的な教材となるよう、筆者らが造形表現と言葉の観点から本学学生に指導を行う。その成果を検討するため、鹿児島市内の保育所で実践を行い、子どもの反応や保育士からの意見を基に、制作物、シナリオ、実演方法、全体の構成等について振り返りを行う事で、効果的な指導法を導き、保育の中で児童文化財を用いることで子どもにどのような価値がもたらされるか考察していく。

2. 研究対象及び方法

本研究では、保育園でのパネルシアターとペープサートの実践を前に、次のような指導を行った。まず、本学児童教育学科小幼保コース・幼保コースに開講している選択科目「造形表現Ⅱ」を受講した11名の学生に対し、本実践のねらいと概要を把握させる事を目的に、筆者や過去の学生が制作、発表したパネルシアターやペープサートの絵人形や実演 VTR を鑑賞させた。次に、学生を3つのグループに分け、子どもの前で実演したい演目とそのねらい、用いる児童文化財を選ばせた。

グループ

- 1: 小幼保コース3名「森のくまさん」ペープサート (表1)
- 2: 幼保コース5名「こんこんクシャン」パネルシアター (表2)
- 3: 幼保コース4名「おもちゃのチャチャチャ」ペープサート (表3)

その後、各グループでペープサートやパネルシアターの制作を行い、セリフや歌を付けながら絵人形の動かし方の練習を行い、全体の構成が検討できた後、各グループ毎に指導案を作成させた。これにより、各活動のねらいを明確にさせ、子どもに対して実践を行う上での指導上の留意点や、環境構成、全体の流れについても考察できるようにした。その後、指導の成果を確かめる為、鹿児島市の保育所2園にパフォーマンスを披露し、子どもの反応等について実

演を鑑賞した保育士から意見を収集し、これらを基に本実践の振り返りと考察を行い、研究の成果をまとめていった。

実践1 : 平成29年11月11日 (土) 10:00~10:45

鹿児島市 N 保育園 (0~4歳児23名 / 保育士6名)

参加学生 : グループ1・2・3

実践2 : 平成29年11月18日 (土) 10:15~11:00

鹿児島市 A 保育園 (1~4歳児40名 / 保育士5名)

参加学生 : グループ2・3

3. パネルシアターとペープサートの指導について

本章では、実践前の指導内容について (1)各児童文化財の基本的内容について (2)造形表現 (3)言葉 (4)演技方 (5)全体の構成といった5つの観点から述べていく。

(1) 各児童文化財の基本的内容について

まず、学生が演目を決める際に、パネルシアターやペープサートの表現内容として、古宇田⁴⁾ や、深川・松永⁵⁾ らの実践を参考に、次の8つについてを例を含めながら示した。まず、登場人物の感情に共感しながら話を深く味わえる童話・昔話・創作話などの①物語、歌詞の内容を広げながら演じる②歌・手遊び歌、子どもの言葉を豊かに広げるしりとり・逆さ言葉・早口言葉・鳴き声探しを含めた③言葉遊び、造形の組み合わせ・間違え探し・色あそびなどを行う④造形遊び、さらには、子どもが楽しく参加できる⑤クイズ遊び、季節や行事・歯磨きや時間をはじめとした子どもにとって身近な⑥生活の内容、最後に、文字や数字に親しむ⑧学習に関する内容と、様々な表現ができることを伝え、作品選びの参考になる様に具体的な作品を挙げながら指導を行った。

次に、演目に合わせた表現方法について、各児童文化財の基本的特徴を踏まえ選べるようにした。

【パネルシアター】

(見る側から)

- ・絵が自由に動く楽しさや、仕掛け等による意外性が感じられ新鮮に鑑賞出来る。
- ・貼り方の工夫で絵が増減し、次の展開に期待が生まれる等、観客はイメージを膨らませながら内容を楽しむことが出来る。

(演じ手側から)

- ・話の内容だけでなく語り方や歌、絵の力を借りながら子どもと交流することが出来る。
- ・子どもの表情を見ながら話しの速さを調整したり、子ど

もの反応を加えながら即興的に演じることも出来る。

- ・ 絵の配置、組み合わせ、仕掛けを取り入れ自由に演じられる。⁴⁾

【ペープサート】

(演じ手側から)

- ・ 動かし方一つで絵人形の喜怒哀楽といった感情表現や、走る、歩くといった様々な動作の表現が出来る。
- ・ 表裏に異なる絵を貼り合わせると、瞬時に方向転換させたり、絵柄や表情などを変化させる事が出来る。⁵⁾
- ・ 物語などを演じる際は基本演じ手は舞台から見えないが、呼びかけを取り入れる等、活用法を工夫すると子どもとのやり取りが可能である。⁶⁾

(見る側から)

- ・ 糸引きや切り込み、巻き込みなど仕掛けによって絵が変化したり、登場するものが増減したりする楽しさがある。⁶⁾⁷⁾

これを踏まえてグループ1は、子どもが児童文化財を通して音楽や造形に親しめるようにとのねらいから、子どもにとって馴染みのある曲を選出し、その表現方法として曲中の山場とも言える登場人物の追いかけっこの場面で、大きな動きを加える事が可能だという意図からペープサートを選んだ。また、グループ2は、実践の時期を踏まえた上で、子どもが健康に関心を持ち、自分の体を大切にしようとする気持ちが育つようにというねらいから、季節感のある幼児曲を選んだ。また、表現方法については、子どもが児童文化財を通したコミュニケーションによって、自分の思いや感じたことを表現できるようにという意図から、子どもとのやり取りが出来るパネルシアターを選んだ。最後にグループ3は、児童文化財を交えながら歌の楽しさを味わうことを目的とし、仕掛けや様々な動きによって、子どもが歌の世界観を楽しめる工夫が広がりそうという意図からペープサートを選んだ。

(2) 造形表現の観点から

演目と表現する児童文化財が決まった後、絵人形や背景等の制作を行った。制作するものとしては、各グループで自由に選択させたが、全グループ最低限必要なものとして、基本人形(表裏のポーズが同じで向きが逆のもの)と景画(背景となる大道具、小道具)は制作できるよう確認し、活動人形(同じ人形が裏表で違うポーズをしているもの)、活動景画(裏表で絵が異なる景画)は必要に応じて制作するよう伝えた。その後、必要な制作物のデザインや大きさ、配色や材料、仕掛けについての検討を行った。まず、絵人形のデザインについては、創作したものでも、一般的に用

いられている型紙などを基に工夫を加えて良いことを伝え、下絵作りにあたった。その際、主要な絵人形は、どちらの児童文化財であっても転画しやすい様に、裏表の絵が必要であること、ペープサートであれば自由に動きを加えられる様に、正面より斜め向きに描く事を伝えた。(図1)



(図1) グループ1 ペープサートの下絵作り

次に大きさについて、ペープサートは基本演じ手にとって操作しやすく、子どもからも表情が見える適当な大きさとして半紙半分から1/5まで⁵⁾が主流である。しかし、本実践では鑑賞者が多くなる可能性があったため、これよりやや大きめになる様、基本の活動人形はA4程度とし登場人物の大きさによって大小差を付けるよう、指導を行った。パネルシアターについては、PペーパーがB4判のものが多く、基本人形はその半分程度のB5判大、小さな絵人形はB6判程度⁸⁾を基本として大きさを決定させた。しかし、この様な目安となる大きさは示しても、絵と余白の大きさとの関係によって、舞台上では見え方が異なってくる為、下絵の倍率を変えて数パターン拡大コピーしたものを、実際にパネル板やペープサートの舞台となる長机前に立て、絵人形が最も多く登場する場面を想定して絵人形を配置し、大きくて重ならないか、全ての子どもに十分見える大きさか検討を行った。

配色や着彩方法については、遠目が利くように、はっきりとした色を使う事、左右隣り合う色の配置や、背景などを作る場合は前後で色が重ならないよう配色する事、淡い色を使う際には縁取りを太くとる事、ムラなく均一に塗る事などの指導を行った。また、物語や歌の世界観を考え、絵人形や背景に色の統一感が出るよう配慮させた。これに加えパネルシアターの着彩については、Pペーパーのけば立ちによって絵人形が貼りつく為、このザラザラとした特性が損なわれない様、水で適度に薄めた絵具を用い、分厚く重ね塗りをしない等のアドバイスを行った。

さらに、制作に使う画材や素材に関しては、ペープサー

トの軸の太さ、長さ、材質について、様々な材料を準備し、学生の意図によって自由に選べるようにした。これにより、グループ2では、歌に欠かせないマスクは、本物と同じ質感を出すためにPペーパーの上にフェルトを貼って制作し、グループ3は、おもちゃが動く不思議さを表現できるよう、紙に竹串を挟む基本の形ではなく、ラミネートした透明な板状の素材と透明感のあるプラスチック製の棒を組み合わせ制作した。(図2) また、活動人形は裏表でポーズが異なるため、透けない様間に白地のフェルトを差し込んだものも制作した。(図3) 他にも、主要な絵人形の背後で操作する音符や花、文字といった補助的なパーツも、仕掛けが目立たない様に同様の素材を利用した。(図4) また、曲のにぎやかで楽しい雰囲気が出せるように、透明なラミネート板にカラフルなフェルトのパーツを貼って装飾する等、各グループこだわりながら制作を行った。



(図2) グループ3 基本人形



(図3) グループ3 活動人形

最後に、仕掛けについては基本的な種類とその作り方について簡単に説明した上で、どう取り入れるか検討させた。ペーパーサートは、蛇腹折にした絵を展開していく巻き取りや、2枚の絵に割ピン等を挿す事で扉や関節の様に動きを付けるもの、切込みを施した背景や絵人形に絵パーツを差し込んだり、取り外したりする仕掛け、裏表に描いた2枚の絵を素早く回転させて見せる仕掛け⁹⁾等について触れた。パネルシアターについては、ポケット、ずらし貼り、窓開き、



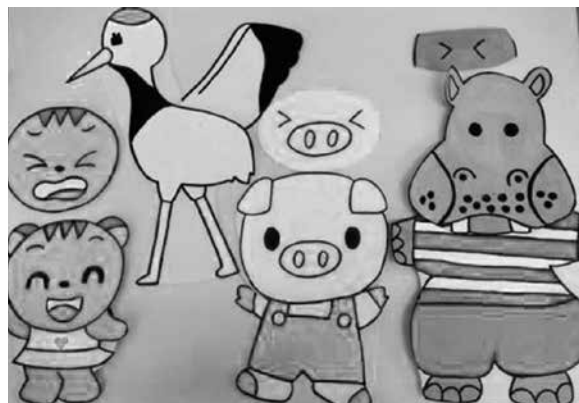
(図4) 基本人形と補助パーツ

糸止め、裏返し⁴⁾等を中心に取り挙げた。

これらの仕掛けは、効果的に使う事で作品の面白さや不思議さが広がるが、話や歌そのものの面白さや、そのねらいを語りや動きなど様々な視点から工夫できるように、特に印象付けたい場面やカギとなる絵人形の動きに活用するよう指導を行った。(図5・6)



(図5) グループ1 糸止めと重ね貼りをを用いたペーパーサート



(図6) グループ2 糸止めと重ね貼りをを用いた絵人形

(3) 言葉の観点から

事前指導と保育所での実践内で、言葉に関する指導を次の4回に渡り行った。

まず、①第2回授業の各児童文化財の特徴について学ぶ際

に、歌を楽しく歌って演じるだけでなく、その歌の内容（世界）を子どもたちに楽しんでもらうために構成を考える必要がある事を説明した。②第8回目授業のプレ発表後に助言を行った。ここでは、各パフォーマンス毎に製作物と演じ方について、さらに3つの演目の構成・流れの組み立てについて指導した。③実践1（第10・11回目授業）の後、各パフォーマンスについてプレ発表時より良くなっている所や、改善点を中心にコメントした。④実践2（第13・14回目授業）後、各パフォーマンスについて最終指導を行った。同時に平嶋の、シナリオや各パフォーマンスの内容構成、演じ方についてのアドバイスや指摘についてのアンケートを配布した。

(4) 演じ方について

絵人形と台詞を含めた発表の全体的な流れが完成した後、絵人形の基本的な操作方法についての指導を行った。

グループ1・3に対しては、ペープサートの上手・下手といった舞台の見方や、絵人形の入退場の方法、表裏の絵を変える転画や、直角転画と呼ばれる絵人形の入れ替えの方法、更には歩く・走る・話すといった基本的な動作と、泣く・笑う・驚くといった感情を表す動かし方について抑えた。また、幼児に話や歌の内容が伝わる様な工夫について、台詞のある場面については話しかける方のみ動かすなど、意味のある動きを心がける事や、幼児にしっかりと絵人形を見せられるよう、ゆっくり動かす事を伝えた。

グループ2のパネルシアターの操作については、まず絵人形が隠れない様に、利き手によって演じ手の立ち位置が変わる事を把握させ、絵人形の持ち方についても生き物であれば表情が見えるよう、体や頭の上部をもって操作を行う事、パネル板に複数の絵人形を貼る場合は、絵人形がよく見えるように、立ち位置から見て奥、中央、手前と順に貼っていく事など基本的な内容を伝えた。また、グループ2は歌と簡単なお話、そして幼児への問いかけを交えた内容であったため、特に歌の場面では絵人形と歌詞とを合わせるために、歌よりも少し早めに絵を貼る事などを意識させた。またお話や問いかけの場面では、パネルシアターは演じ手が幼児から見える為、舞台ではなく子どもたちの顔を見て絵人形を動かしたり問いかけたりする事、絵人形と演じ手とも関わりを作るといった、パネルシアターと演者と子どもが一体となるような工夫が必要であることを伝え、各グループ毎に練習を行った。(図7)

(5) 全体の構成について

(3)で絵人形の動きについて練習を実施している際、実践の流れやグループ毎の活動のねらいを明確にさせる為、指



(図7) 練習の様子

導案作成を行い、導入を含めた発表の流れ、環境構成と準備物、子どもの前で演じる際の配慮事項等について纏めた。(表1・2・3)

環境構成については、実践する保育室を事前に確認できなかった為計画が難しい面があったが、どのグループも子どもが鑑賞しやすい様に、舞台となるパネル板と長机が逆光にならない場所で演じられる様にし、演じ手にとっても動きやすい立ち位置かを考えて配置出来るよう計画した。また、子どもの座る位置について、舞台からどのくらいの距離があると全体を見渡せるのか、椅子が必要なのか、床に座っても十分見えるのか、子どもが集中できる目線に近いパネル板下には暗幕が必要か等、細かな点についても計画を練った。

他にも、グループ1・3については、長机の高さでは演者が見えてしまうため、高さを出す積み木を用いる工夫や、背景の設置についてはどのくらいの高さがあると、座っている子どもが無理なく鑑賞できるかを考えさせた。グループ2は、絵人形が落ちないようにパネル台にどの程度の傾斜を付けるべきか、それが子どもにとってよく見える状態か等も考えていった。

これらの基本的な内容を踏まえた上で、各グループで繰り返し練習を行った。その後製作物、演じ方、全体の構成等について改善点を見つける事を目的として、教員の前でプレ発表を行い、助言や指導(表4)を基に各グループで修正に入った。(図8)

これについて、特にペープサートを用いるグループ1・3は、歌詞に沿ってペープサートの動きを付けている段階であった為、盛り上がり欠ける場面があり、歌の楽しさや意図が伝わりづらい箇所が見られた。そのため、間奏中に曲の世界観をイメージできるような話や子どもとのやり取り等を盛り込むといった、内容を膨らませる工夫が必要であることを伝えた。他にも2グループ共、動きが小さく絵人



(図8) グループでの意見交換

形が止まっている場面が多かった為、子どもが歌や話に入り込めるように、何らかの動きや身振りを取り入れる事や、動きを大きくゆっくりと見せる事などの改善点を伝えた。また、制作物については粗方のものが出来ていたが、舞台の始まりと終わりを区切る書き割り(小道具)が無い所もあったため、制作するよう助言を行った。

次にパネルシアターを用いるグループ2については、演者が絵人形と子どもとをよく見て、問いかけや語りが出来よう、操作する際にはパネル板だけでなく前を見て演じる事を再度伝えた。また、演者が絵人形と重なっていたため、立ち位置や絵人形の配置について検討が必要である事、複数の絵人形が登場する際に、絵人形の位置と余白のバランスが悪く、演じている最中に貼りつける場所を迷っている様子が見られた為、舞台上のどこに何を配置するか事前に決める様、アドバイスを行った。さらに言葉については、マスクを探すクイズの場面では、子どもにとって答え辛い質問があったため、答えやすい言葉に変更する様、助言を行った。

そして、プレ発表の改善点を消化した上で学生間発表を実施し、グループ相互の評価や意見交換を行った。以下に示すものがその意見の詳細である。

【11/10(金) 学生間の発表を終えて 発表・鑑賞の相互評価まとめ】

グループ1への意見 (工夫点=○、改善点=●、()内は人数)

(製作物について)

- ペープの大きさが丁度良く見やすかった。
- 作り物が丁寧で、手作りのキャラクターが可愛らしく、背景のちぎり絵も綺麗だった。また、舞台上の書き割りも立体的で良かった。(5)
- ペープサートの足が動くので歩いている様子が伝わり、表情が変わる等の仕掛けが面白い。(5)
- 背景が小さい。

(動き・演じ方他)

- 導入が笑顔で、抑揚のある声でゆっくり話していたので聞き取りやすくて良かった。(2)
- 歌に出てくるペープサートを使って導入を行う所が工夫され何が出てくるのか引き付けられた。(4)
- 歌の間に話が入っていて楽しく分かりやすかった。(4)
- 8の字に動かす等楽しさを伝える動かし方があった。(3)
- 話と歌をテンポよく進められていて、大きな声で演じていて聴きやすかった。子どもたちに問いかける場面もあり、良かった。(2)
- ペープサートの動きが早くて見づらい所があった。もう少し落ち着いた動きでもよい。
- 横の動きばかりだったのでリズムに合わせた他の動きが欲しい。(4)
- 登場人物2人の声の違いが分かりづらかった。(4)
- 登場人物のやり取りはもう少しゆっくり演じてても良い。
- 歌と動きがずれている所が所々あった。(3)
- 歌詞をもっと覚えると自信をもって演じられそう。(2)

グループ2への意見 (工夫点=○、改善点=●、()内は人数)

(製作物について)

- 作り物が見やすく、キャラクターが可愛かった。
- 表情が変わる仕掛けがあった。(2)
- 糸を使った文字の引っ張りの仕掛けがうまく見えなかった。

(動き・演じ方他)

- 歌の間に話が挟まっていた楽しめた。また、子どもたちに問いかけてお話を進めていた。(4)
- 歌う際は歌詞に合わせて大きな、細いなどマスクの大きさを表現する振付けも取り入れていた。(4)
- ピアノや声の大きさも丁度良く、話し方も聞き取りやすかった。
- 動物に合わせた効果音が入っていて工夫していた。(2)
- マスクが何度か落ちる場面があった。(3)
- 歌に入る前の咳をもう少し大きくしないと聞こえにくい。

グループ3への意見 (工夫点=○、改善点=●、()内は人数)

(製作物について)

- 制作物が歌の世界観に合っていて入りやすかった。(2)
- 歌に合わせて背景が朝、夜と変わる所が良かった。また、おもちゃ箱の蓋が開け閉めする仕掛けが面白かった。子どもが喜びそう。(5)
- 細かな所まで人形が作られていて、フェルトの色合いも良い。

●背景の景色を変える際は棒などを使ってはどうか。

(動き・演じ方他)

○導入のチャチャチャのリズム練習を取り入れると歌の時に子どもたちが楽しく参加出来るそう。(3)

○簡単な劇から始めるところが工夫されていた。(2)

○動きが色々あって人形の特徴が出ていた。(2)

○楽器を使っている所が良かった。

●ペープサートが重なって見えにくい所があった。また、ペープをもう少し上で演じないとはっきり見えない。

●おもちゃ箱の中がもっと見えるように傾けてみたらどうか。(2)

●歌を元気よく歌ってほしい。(2)

プレ発表と学生間発表の結果を比較すると、グループ1・3共に、内容を広げるという改善点を、歌の導入部や曲の間に、歌詞に合わせたストーリーやセリフを加える等の工夫が加えられて、歌の内容が豊かになっていた。また、ペープサートの動きが小さく、止まっていた点についても、グループ1は、舞台の一部で演じていた為、追いかけてくる場面が止まって見えていたが、一度舞台下手に退場させた絵人形を、再度上手から登場させるといった事を数回取り入れ、左右の空間を全て使った大きな動きに改善されていた。グループ3は曲のサビ部分に合わせて、絵人形を交差させる、上下高さを変える、回転させるといった様々な動きのバリエーションを付け子どもが楽しめるような動きに改善していた。さらに制作物に関しては、背景や長机上に置く書き割りなども完成したことで舞台の境界がしっかりと出来た上に、歌の世界観が見る側により伝わりやすくなった。

次に、グループ2のパネルシアターについては、演者が前を見て絵人形を動かすことが出来ており、声の通りも良くなっていた。また、複数のマスクから、登場した動物に合うものがどれか問いかける場面についても、選択肢のうち上・右のマスクなどの位置を示す言葉や、四角い・細いマスクといった形の特徴を伝えたり、指さしする等の工夫が見られた。さらにプレ発表では、演者が絵人形と重なっている場面があったが、絵人形の入退場の方向やパネル上の配置を変える事で、見やすく改善されていた。

これを基に保育所での実践に向け更なる改善を加えていった。

4. 保育園での幼児を対象とした実践と結果

まず、実践の場である鹿児島市内の保育所2園の実態について、普段パネルシアターやペープサートをどのように保

育に取り入れているのかを把握するため、アンケートを行った。実践1の場であるN保育園では、誕生会や行事、普段の読み聞かせの導入時などに月2、3度のペースでお話を中心としたパネルシアターとペープサートを用いた保育を行っている。また、実践2のA保育園は、季節感を味わえる様なお話や、七夕や十五夜等の行事の際に、その行事の由来を分かりやすく伝える方法として児童文化財を用いていた。また、誕生会で保育士からの出し物としてパネルシアターとペープサートを取り入れた活動を行っている。その他にも、地域ふれあいの時でも活用する事が多いようである。このような行事等の節目に取り入れる事で特別感もあり、子どもたちが喜んで鑑賞している事が分かった。しかし一方で、行事では利用する機会も多いが、普段の保育の中で積極的に取り入れることが少なくなっているとの声も聞かれた。

また、パネルシアターやペープサートを保育に取り入れる際の配慮事項について、実践1のN保育園では、絵人形や背景などの制作物はなるべく大きく作る事で、見やすさを考慮し、背景については場面の邪魔にならない様に派手な色を避け、絵人形を効果的に見せる工夫を行っている事が分かった。演じ方については、見せたい部分は前に出して強調したり大きく動かす工夫をしている事、子どもの目線に合わせた位置で動かす事や、歌や言葉と動きを一致させる事に配慮していた。

さらに実践2のA保育園では、演目にどの様な場面があり、どの位制作物が必要かよく考えた上で制作を始め、絵人形は表情が良く見えるように絵作りし、明るい色彩で着色する事、鑑賞する子どもの数を配慮しながら大きさを決めていく事などが挙げられた。また、子ども全員が見やすい高さ、場所の環境設定をした上で、演じる際は明るく表情豊かに内容を伝えていくよう意識したり、絵人形とセリフを調和させる事を大切にしている事などが分かった。さらに、子どもに興味を持ってもらえる様に、話のテンポや声のトーンを変えたり掛け合いを取り入れたり、大きく・早く等の様々な動きを取り入れたりする工夫を行っている事も把握できた。この各園での実践時の視点から本学学生の実践を鑑賞してもらい、制作物や演じ方、子どもの反応等の項目について評価と意見を収集した。

(1) 鹿児島市N保育園での実践1について

実践1は、鹿児島市N保育園の、0~4歳児23名と保育士6名を対象に3グループの学生が45分程で実践を行った。

グループ1のペープサートでは、「森のくまさん」の馴染みある曲に合わせて未満児が体を揺らしながら聞き入る姿

や、以上児についても自然と手拍子が起こったり、輪唱を始めたたりするなど曲に親しむ様子が確認できた。また、制作物については(表6)の保育士による評価を見ても、制作物が丁寧で絵も良く、色使いがはっきりして良かったとの意見があり、(表7)に示したように、絵人形の大きさについては全員が丁度良いとし、キャラクターや背景等の制作物から曲の雰囲気を感じられたとする評価が未回答を除き全員という評価となった。

グループ2の、「こんこんクシャーン」の曲を主題としたパネルシアターについては、低年齢の子どもが、出てきた動物を指さしたり名前を口々に話す姿があり、年齢の高い子どもはマスクに関するクイズにすぐに反応する所が見られ、パネルシアターを通したコミュニケーションを楽しく行っていた。また(表6)には、制作物の丁寧さや異素材を用いた絵人形の工夫などについて評価があり、(表7)では制作物の造形や仕掛けから子どもが楽しめる配慮が感じられたという意見が挙がった。他にも、セリフや導入の声の大きさや聞き取りやすさ、話し方のテンポなど、言葉の表現項目について全員が丁度良いと答えた。

グループ3の、ペープサートによる「おもちゃのチャチャチャ」の発表については、背景が昼夜変化する仕掛けなどに子どもたちが気づき、興味を持って見ており、低年齢の子どももリズムに合わせて手拍子する等、楽しむ様子が見られた。保育士からの意見(表6)を見ると、背景の絵の変化に加え、おもちゃ箱の仕掛け、制作物の細かさ、丁寧さなど、制作物を評価する記述が多く、(表7)の作品の完成度の項目を見ても概ね良好な評価を頂いた事が分かる。

この実践1後の授業内で、学生に当日の実践VTRを見せ、良かった点や改善点、子どもの反応について自己評価と振り返りを行った。その後、他グループからの感想(表5)と、実践1を鑑賞していたN保育園保育士からのコメントと評価(表6・表7中の実践1)等も各グループに返却し、先程述べた振り返りの内容を踏まえて改善点をグループで出し合い、実践2に向けて修正を行った。

グループ1は、今後実践する際に改善したい事として、演じ方に関しては、導入部では子どもとのやり取りが出来ており自然と一緒に歌う子どももいたが、(表6)の意見も受けて、メインの歌の場面でも、子どもたち全員に参加してもらえるような呼び掛けや手拍子を入れるなどの工夫を加えたいとの意見を挙げていた。絵人形の動きについても(表5)の意見を基に、全体的にゆっくり大きく動かしバリエーションを付ける事、歌と絵人形の動きがずれている箇所を修正する事、演者が見えない分、ペープサートを見てどの

ような登場人物かすぐに分かる様に、声色を使い分ける事を改善したいという事であった。制作物については、歌に出てくるイヤリングに注目できるよう取り外し可能な仕掛けを考えたい、背景の大きさの検討が不十分であったなどの意見が出された。

グループ2は、制作物を一部修正した為、学生間発表よりスムーズに仕掛けを見せられた事、(表6)の意見を受け、制作物の改善点として、もっと動物らしさが表現できるように絵人形に大小差を付ける事、(表5)から、マスクが落ちやすいため補強を行う事などを挙げていた。また、演じ方等については、子どもたちの予想外の意見や沢山の反応にも一つ一つ応えられて良かった事等が確認できた。改善点としては、準備が完了するまでに指遊びを行う事、各動物の動く仕掛けがまだ生かしていないため、動物らしい動きを加えて演じたい事、絵人形が全て集合する際の配置を検討する事、全体的に発表が間延びした為、子どもが集中できるように間奏を省略したり、子どもにも振付と一緒に踊ってもらえるよう積極的に声掛けしたい事等が挙げられた。

グループ3は、(表6)の、ラミネート素材が光って見えにくかったという意見から、今回はブラインドを閉めただけで十分な環境が整えられなかった為、今回は暗幕やカーテンをしっかりと引いてどの子どもにも絵人形がよく見えるように配慮したい事を挙げていた。他にも、VTRを鑑賞した事で絵人形が多く重なって見えにくい所があった事、書き割りとして舞台上に設置するおもちゃ箱の配置を工夫し、伸び伸びと空間が使えるように修正したい事、一つ一つの動きをしっかりと見せられるよう、決めた動きにメリハリをつけて動かす事などを改善点として挙げていた。

(2) 鹿児島市 A 保育園での実践2について

実践2は、鹿児島市 A 保育園で1~4歳児40名と保育士5名を対象とし、グループ2、3の学生が35分程で実践を行った。発表については、実践1から改善を加えた成果もあり、両グループ共に子どもの反応が大変よく、グループ2のパネルシアターのクイズや問いかけへの応答も口々に意見が飛び交っており活発なコミュニケーションが取れていた。グループ3のペープサートでも、実践2で新たに取り入れた導入部のリズム打ち練習や、発表中の歌も子どもが大きな声で楽しく歌い、手拍子する様子が見られた。

(表6)を見ても、グループ2へは、子どもと対話しながら楽しく話進めていて、どの年齢の子どもも楽しく見ていた、慣れ親しんだ歌をパネルシアターという別の表現で見られて、子どもが喜んでいただとの評価をいただいた。グループ3



(図9) グループ1 実践1の様子



(図10) グループ2 実践1の様子



(図11) グループ3 実践1の様子

へも、子どもたちが食い入るように鑑賞しており、もっと見たいという反応があった事、賑やかな曲に合わせた制作物で曲の雰囲気が伝わった、手拍子を入れる工夫も良かった等のコメントがあった。

A 保育園での実践後、前回同様に実践 VTR を見せ、子どもの反応から気づいた事や、実践を鑑賞していた保育士からのコメントと評価（表6・表7中の実践2）を各グループに配布し、これらを材料としながらこの実践の自己評価とまとめを行った。

学生の自己評価を散見すると、どのグループからもプレ発表や学生間発表、1回目の実践で見えた課題を繰り返し修正した事で、自信をもって演じられ良い発表が出来た、特に子どもたちから沢山の反応が返ってきたので、自分も楽

しみながら演じる事が出来た、子どもの反応にしっかり対応し、児童文化財を通してコミュニケーションを図る事の大切さに改めて気づいた、といった意見が挙がっていた。また、グループ2では、問いかけの言葉が単調であったとの評価から、質問する言葉や問いかけの間の取り方などに工夫が必要だった事、曲の高低やボリュームを変える工夫によって登場人物のイメージが広がる事を知り、次に生かしたいとの改善点等も挙がった。グループ3では、発表後に絵人形に触れてもらう機会を作った事で、様々な子どもの反応を間近で見られた、今後の課題は、全体的に流れが短かった為子どもたちが更に満足するような工夫を加えたいという意見があった。

5. 考察

まず言葉に関する指導について、3章（2）に述べたプレ発表のコメント（表4）と2回の実践後に行った指導について各グループの学生へのアンケートを基にその効果を考察する。

グループ1：「森のくまさん」回答者2名

①プレ発表時

- ・思ったより改善点をたくさん指摘された。特にペープの動きが小さい事。
- ・ペープサート人形の手足を固定するなどアドバイスに従って変更した。

②実演1回目

- ・ストーリー仕立てにして、導入を工夫したところ子どもたちから予想外の反応が返って来たので驚いた。

③感想・総括

- ・アドバイスが役に立ち、ペープの動きが大きく、また動かし方も工夫できることが分かった。
- ・歌だけでなくストーリーを考えて構成したら内容が膨らみ、より豊かになった。



(図12) グループ2 実践2の様子



(図13) グループ3 実践2の様子



(図14) 実践2後の触れあいの様子

グループ2:「コンコンクシヤンの歌」回答者5名

①プレ発表時

・「マスク屋」というお店が不自然と言われたことが印象に残った。子どもにとって身近なドラッグストアでも面白く子どもたちが理解しやすいことも分かった。

②実演1回目

・時間が長かった（間延びしている）というコメントと、最後にもう一度1～5番を歌うところは間奏を省くと良い言われたことが特に印象に残った。
・改善点があったが次に向けて頑張ろうという思いが出てきた。

③実演2回目

・1回目より色々な点を工夫できた。
・次にパネルシアターなどを制作して演じる時には生かせると思った。

④感想・総括

・パネル操作で表情を変えるタイミングや相応しいマスクを選ぶ際に子どもたちに問いかける動きなどコメントが役立った。
・マスクの耳掛け部分がパネル人形の耳に届いていないとのアドバイスがあったが、素材をPペーパーにする点は

時間不足のため改善できなかった。

・観客に話しかけたり問いかけたりなどコミュニケーションを取る、登場の仕方を工夫することによって子どもたちが楽しんでくれることが実感できた。

グループ3:「おもちゃのチャチャチャ」回答者4名

①プレ発表時

・上手下手を区切る大道具を作り舞台を意識してペープサート人形を動かすというアドバイスが印象に残った。
・歌はメロディーではなく伴奏にして演者と子どもたちも一緒に歌えるようにする事はすぐに取り入れられた。
・おもちゃ箱に本物のおもちゃを入れるのではなく、紙に描いたものが良いとの助言もすぐに改善した。
・コメントは、ペープの動きをどのように工夫したら良いか具体的に分かったので良かった。

②実演1回目

・舞台の左右の使い方が狭く、ペープサート人形の動きが小さくて単調だったので動きのバリエーションを増やすようコメントされた点が印象に残った。

③実演2回目

・実践1よりも良くなっていたとのコメントがあり嬉しく、また次に活かしたいと思った。
・子どもたちが楽しそうに歌ったり手拍子してくれてやり甲斐があった。
・演目の繋ぎの時に「今のお話しはどうでしたか？」という問いかけは答え辛いので適切でないというコメントが印象に残った。

④感想・総括

・アドバイスによって、ペープサート人形の動きのバリエーションを増やせた点が良かった。
・自分たちも楽しみながら演技できた。

次に造形表現や全体を総括して考察する。まず本稿では、子どもにとって児童文化財を活用する意義と、効果的な指導法や教材作りを模索する事を目的に、学生への指導と保育現場での実践を行った。事前指導では、各児童文化財の制作方法や演じ方など基本的な内容を指導する事で、ペープサートでは上下、左右、奥ゆきなど空間をフルに使い、様々な動きの工夫が肝要である事、パネルシアターでは演じ手が見える分、コミュニケーションを積極的に取り入れる等、それぞれの特徴を押さえた教材作りを行う事が出来た。この基本を踏まえ、教員前でのプレ発表、学生間発表、保育園での実践といった、発表と振り返りの場を数回設ける事で、筆者らや学生間でよりよい教材となる様、改善点や伸ばすべき工夫点等に関して積極的な意見交換が出来、

子どもへの配慮を考察しながら修正を行い、表現を深化させる事が出来た。

3グループ計5回の実演ではあったが、やはりお話や歌遊びなど、場数を踏む毎にパフォーマンスは向上する事や、映像媒体で記録しておき、自身の演技を確認することが非常に有効であることが分かった。そして演者に適切なタイミングでコメントする事によって自身の活動を客観的に見る事ができ、次の保育活動への意欲を高められることが確認できた。

また、現場で児童文化財を実演する機会の多い保育士の意見や評価を収集し、さらに実践 VTR によって子どもの反応について客観的に分析する事で、子どもの実態に応じた演じ方や制作物の在り方、効果的な問いかけ、適切な環境構成等の具体的な配慮が明確になった。

6. 参考文献

- 1) 谷田貝公昭：新版・保育用語辞典、一藝社、pp192、2016参照
- 2) 谷田貝公昭：新版・保育用語辞典、一藝社、pp320、2016参照
- 3) 谷田貝公昭：新版・保育用語辞典、一藝社、pp343、2016参照
- 4) 古宇田亮順：実習に役立つパネルシアターハンドブック、萌文書林、pp8-13、pp32-37、pp45-50、2009、参照
- 5) 深川一郎、松永輝義：保育技術ハンドブック ペーぷさと・絵話の作り方と演じ方、明治図書出版、pp8-12、pp31-44、pp50-86、1987、参照
- 6) 阿部恵：アレンジたっぷりペープサート、ひかりのくに、pp1、pp32-39、2010、参照
- 7) 吉田ちかこ：幼稚園・保育園・園児が喜ぶつくりもの簡単・すぐに楽しめるアイデアがいっぱい しかけペープサート、誠文堂新光社、pp4-29、2011、参照
- 8) 小林雅代：やさしくつくってたのしく演じる保育に活かすパネルシアター、アイ企画、pp20、1997、参照
- 9) 南夢未：おなじみの歌で楽しめるかんたんペープサート、ナツメ社、pp20-57、2009、参照

(平成29年12月15日 受理)

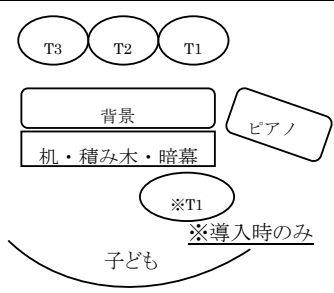
表1 グループ1 指導案

造形表現Ⅱ

保育技術実践 指導案

作成日:平成29年10月27日(金)

日時	平成29年11月11日(土)10:00-10:45		
担当者	小幼保コース3名:グループ1		
子どもの姿	年中4歳児 計30名 ・行動範囲も広がり、言葉も少しずつ増えてきて、自分の知っていることを一生懸命言葉にして伝えようとする。 ・チャレンジ精神旺盛で、何でもできるという自信に満ちあふれている。 ・気持ちの調整がうまくできず感情的になったり、攻撃的になったりするが、保育者の関わりにより、気持ちを調整できるようになる。		
ねらい	・友達と感想を伝え合うことを通して、コミュニケーション力を高める。 ・音楽や造形に興味をもち、豊かな感性を養う。 ・ペープサートを見て、歌詞から曲のイメージを膨らませる。	保育者の目標	・時間内に発表を行う。 ・子どもたちと一緒に歌いながら、楽しく演じられるように工夫する。 ・歌詞に合わせて、子どもたちが見やすいように絵人形を大きく動かす。 ・ 歌の間にお話を挟み、子どもたちが歌のイメージを膨らませられるようにする。
活動内容	ペープサートを鑑賞する。 ① お話 (絵人形を用いて歌の導入を行う。) ② 「森のくまさん」を鑑賞し歌う。(歌詞に合わせたお話と歌を交互に取り入れて歌い進める。)		

環境構成・準備物	時間	子どもの活動	保育者の配慮・環境図・作品等
 <p>※導入時のみ</p> <p>子ども</p> <p><準備物> ・机×2 ・暗幕×2 ・背景×1 ・テープ ・磁石・ ペープサート ・ピアノ</p>	9:45	○シートに座る。 ○静かに待つ。	・子どもたちが見えやすいように、背景を高めを設定するなど、環境を整え準備を行う。 ・シートに座るように声掛けをする。
	10:00	◎ペープサートを見る。 ・お話を聞く	・ペープサートに興味を持つことが出来るように、実際に絵人形を見せる。 ・子どもたちがお話に入ることが出来るように声掛けをする。
	10:03	・「森のくまさん」を歌う。	・家や森など歌の場面を意識することが出来るような制作物を準備する。 ・子どもたちが見やすいように歌詞に合わせて、大きく絵人形を動かす。 ・ 歌の前後や間にお話を挟むことで、子どもたちが歌詞からイメージしたことを膨らませることが出来るようにする。 ・子どもたちに歌詞の内容が伝わるように、大きな声で歌う。 ・子どもたちが楽しく鑑賞することが出来るように、保育者自身が楽しんで行う。 ・ <u>絵人形を使って歌の感想などを問いかけ、活動を締めくくる。</u>
	10:10	○活動を振り返る。	

※太字:実践1・2に向け、修正した箇所
 ※下線:実践の内容が伝わる様、筆者が補足した内容
 ※():実践1と2で異なる点

パネルシアターとパープサートの指導法についての考察

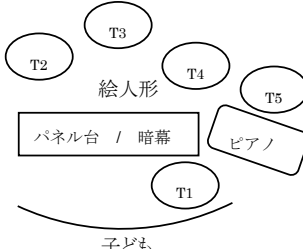
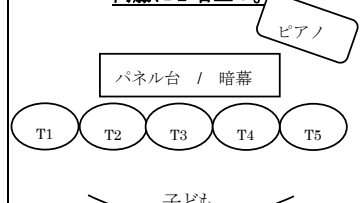
表2 グループ2 指導案

造形表現Ⅱ

保育技術実践 指導案

平成29年10月27日(金)

日時	平成29年11月11日(土)10:00-10:45 平成29年11月18日(土)10:15-11:00	
担当者	幼保コース5名:グループ2	
子どもの姿	年中4歳児 計30名 ・様々なことに興味・関心が高まり、遊びに取り入れたり自分の世界を広げたりする。 ・身支度や持ち物の始末が自分で出来るようになり、自信を持って生活する様子が見られる。 ・イメージが豊かになり、自分なりに表現することが出来るようになる。 ・友達と過ごす中で、安心感を持ち、他人の気持ちを考えられるようになる。	
ねらい	・自分の健康に関心を持ち、自分の体を大切にしようとする気持ちが育つようにする。 ・パネルシアターを通したやり取りによって自分の思いや感じたことを表現する。 ・保育者や友達の言葉や話に興味・関心を持ち、共に楽しみ共感しあう。	保育者の目標 ・時間内に発表を行う。 ・子どもとコミュニケーションを大切にしながら楽しむ。 ・流れや絵人形を動かすタイミング、動かし方をスムーズに実践する。 ・聞き取りやすい声の大きさと歌い、話し方にも抑揚をつけ、工夫する。
活動内容	パネルシアターを鑑賞する ① お話 (マスクについて) ② 「コンコンクシヤンのうた」(パネルシアターを用いたクイズと歌) ※1 回目は登場する動物(リス、ツル、ブタ、カバ、ゾウ)を1つずつ紹介しながらマスクを選ぶ内容をクイズ形式で行う。答えが出た後、登場した動物に合わせて歌を歌う。 ③ 「コンコンクシヤンのうた」(パネルシアターを用いた歌と振付)	

環境構成・準備物等	時間	子どもの活動	保育者の配慮
 <p>環境構成・準備物等</p> <p>絵人形 T2 T3 T4 T5</p> <p>パネル台 / 暗幕</p> <p>ピアノ</p> <p>子ども T1</p> <p>※T1～T4は登場する動物によってパネル前で演じる為、立ち位置が変わる。 ※T5はピアノを主にしながらも、お話のつなぎや最後の振り返り場面などには、パネル前で演じる。</p>	<p>(10:15)</p> <p>10:10 (10:20)</p>	<p>◎保育室に集まる。 ・静かに座って待つ。</p> <p>◎お話を聞く。 ・グループ1の感想について(11日のみ) ・「こんこんクシヤン」の歌で出てくるマスクの話について</p> <p>◎パネルシアターを見る。 ・登場した動物に合うマスクについてクイズに答える。 ・最後に残った1枚のマスクを見て最後に登場する動物が何か答える。</p> <p>◎パネルシアターを見る。 ・歌を歌う。</p> <p>・振付を入れながら歌う。</p> <p>◎お話を聞く。 ・感想を話し振り返る ・風邪に気を付けること</p>	<p>・日光を遮る為、カーテンを閉める。 ・子どもが見やすいように、パネル板の配置や傾きに配慮しながらパネル台を準備する。また、パネル下の暗幕、ピアノの配置を工夫する。</p> <p>・落ちついた雰囲気の中でパネルシアターを鑑賞することが出来るように、導入の話の内容や、声の大きさ、動作を工夫する。 ・「こんこんクシヤン」の歌に出てくる動物が想像できるような話をする。</p> <p>・パネルシアターに興味を持つことが出来るように、関連したクイズを出す。 ・自分の感情や意志を積極的に表現出来るように、子どもたちの反応に共感する。 ・周りをよく見て、状況を把握する。 ・子どもたちが話に入り込むことが出来るように、感情豊かに表現する。</p> <p>・音楽に合わせてスムーズに進められるよう、ピアノと演者が息を合わせながら協力して演じる。 ・子どもたちが歌いやすいように、歌い始めの合図として言葉がけをし、テンポを工夫する。 ・子どもたちが楽しめるように、声や振付を大きくし、表情豊かに演じる。</p> <p>・活動を振り返り、満足感を得ることが出来るようにする。</p>
<p>※振付を入れて歌う際は、パネル板の両脇に2名立つ。</p>  <p>ピアノ</p> <p>パネル台 / 暗幕</p> <p>子ども T1 T2 T3 T4 T5</p>	<p>10:20 (10:30)</p>		

※太字:実践1・2に向け、修正した箇所

※下線:実践の内容が伝わる様、筆者が補足した内容

※():実践1と2で異なる点

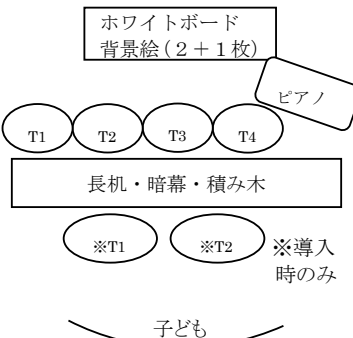
表3 グループ3 指導案

造形表現Ⅱ

保育技術実践 指導案

作成日:平成29年10月27日(金)

日時	平成29年11月11日(土)10:00-10:45 平成29年11月18日(土)10:15-11:00		
担当者	幼保コース4名:グループ3		
子どもの姿	年中4歳児 計30名 ・自分と他人の区別がはっきりと分かるようになり、自我が形成され、自分の思いを通そうとする思いで、トラブルになることがあるが保育者の関わりにより気持ちを調整できるようになる。 ・周りの自然環境に興味を示し、積極的に関わろうとしている姿が見られる。 ・想像力が豊かになり、遊びの中でイメージを広げ友達とイメージを共有しながら想像の世界の中で、ごっこ遊びに繋げ楽しんでいる。		
ねらい	・音楽に親しみ、歌を歌ったり簡単な手拍子をしたりする楽しさを味わう。 ・友達同士で面白さの違いに気づき、共感する。 ・音楽や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像力を高める。	保育者の目標	・子どもたちが見やすい動かし方を意識して行う。 ・ねらいを達成することができるような演技方を工夫する。 ・子どもが物語に引き付けられるように作品の細かい部分について配慮する。 ・時間内に終わらせる。
活動内容	おもちゃのチャチャチャのペープサートを鑑賞する。 ①お話 (前の発表の振り返り、おもちゃの出でくる歌について) ②リズム打ちの練習 (曲内に繰り返し出てくるチャチャチャについて、リズム打ちの練習) ③ペープサート鑑賞「おもちゃのチャチャチャ」		

環境構成・準備物	時間	子どもの活動	保育者の配慮・環境図・作品等
	<p>10:20 (10:30)</p> <p>10:25 (10:35)</p> <p>10:30 (10:45)</p>	<p>◎ペープサートを見る。 ・お話を聞く。 ・グループ1の発表について「おもちゃの出でくる歌について」 ・リズム打ちの練習をする</p> <p>・ペープサート「おもちゃのチャチャチャ」を見る。</p> <p>◎お話を聞く。 ・歌について ・感想を話す</p>	<p>・子どもたちが発表を集中して見ることができるように、日差しや机の位置などを配慮する。 ・スムーズに演じることができるように、道具類を使う順番に整理しておく。 ・子どもたちが活動に興味を持てるように、元気よく笑顔で挨拶をする。 ・落ち着いた雰囲気で見ることができるよう明るい表情で話をする。 ・前の歌の振り返りをし、次に何の歌を歌うか期待が持てるように問いかけ、手拍子の練習をする。 ・子どもたちにリズムが伝わりやすいように、大きく手を動かす。 ・リズムに合わせて手拍子ができるように、保育者が言葉かけをしながら、手本を見せる。 ・子どもたちが歌詞の内容を理解できるように、ペープサートの前に台詞のみの短い劇をする。 ・子どもたちが聞きやすいように声の大きさや抑揚に気をつけて話す。 ・子どもたちが楽しく歌うことができるように、保育者が明るく元気に歌う。 ・チャチャチャのリズムが感じられるように楽器を取り入れる。 ・子どもたちの注目を引き付けることができるように、ペープサートの動きを大きくしたり強弱をつけたりする。 ・歌いやすいように音楽の速さに気を付けて、はっきり歌う。 ・子どもたちが楽しかった気持ちを味わうことができるように振り返りをする。</p>

※太字:実践1・2に向け、修正した箇所
※下線:実践の内容が伝わる様、筆者が補足した内容
※():実践1と2で異なる点

パネルシアターとペープサートの指導法についての考察

表4 プレ発表での筆者らの助言と指導内容

<p>グループ 1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指遊びを導入として使う場合は、曲の内容に関連するものや、静かな環境にするために注目させるようなものの方が適しているのではない。 ・すぐに終わってしまうので、歌うテンポを落とし、台詞など歌詞から連想した曲の内容を膨らませるなど、子どもを惹き付ける工夫が必要である。 ・ペープが止まっていたり、動きが小さい場面が多い。追いかけてこする左右の動きだけでなく前後や上下等の空間をフルに使った動きを加える。 ・人形の登場退場が舞台途中で行われているところがあり違和感がある。上手下手を使ったり、直角転画を利用する。 ・導入が全チームとも指遊びで単調である。3グループで一つの流れになるよう要調整。 ・動きが同じようなものなので曲の内容や話が入ってこない。 ・せわしなく急いでいるように見える。 ・上手、下手に舞台を区切る制作物を作る。 ・手が動く仕掛けを使っているが、常にブラブラと動くので意味のある動きになる様工夫する。 ・歌詞に合わせた動きで終わっているため、主人公を使いながらストーリーを作る等工夫する。
<p>グループ 2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台前で歌ったり、絵人形を動かす時は、前を見て行う。子どもの前で演じているという意識を持つ。 ・基本は絵人形は裏表作るが、今回は片面のみなので、登場の仕方、パネルを置く位置をよく考える。 ・一部で、演じ手が重ね貼りしたり、入退場させる時に絵人形が見えない事があった。 ・子どもとやりとり出来る良さがあるが、子どもに質問する言葉で「どんな表情に見える?」「動物さんどうしたんだと思う?」等、答え方が難しい問いもあった。 ・マスク、動物、背景も白いものは、輪郭を取る、薄く色を付けるなど、制作物にも手を加えて欲しい。 ・2回目に曲を歌う際、身振りを入れていますが、人形を操作する人も同じ様に動く。 ・引っ張りの仕掛けは文字ざりざりに切っていて引っ掛かるので、丸等に切ったPペーパーを後ろから足しスムーズに動かせる様にする。 ・指遊びはもっと笑顔で行う。 ・1回目もピアノを弾くか、アカペラで歌う際は音程を正確に歌う。 ・質問が難しいため、答えやすいよう「このマスクかな」など指さしをしてみたり、ヒントを出す。 ・身振りをする時は舞台上に出ている人の動きをしっかり合わせる。 ・マスク屋や、背景などがフェルトではなくPペーパーで作れないか。異素材なので違和感がある。 ・紐が欠けていてマスクに見えないので、作り直せないか。 ・パネルに絵人形を貼る位置を再検討する。 ・上手下手からだけでなく、パネルの上下も使って登場が単調にならないように工夫する。 ・言葉かけは「静かに」「～してください」等ではなく、子どもに伝えやすい言葉に変える。 ・羽や尻尾など糸止めている良さを生かしていないので動かし方を工夫する。 ・絵人形表の表情が歌と合っていない。マスクをつけた後に笑顔の表情にした方が良い。
<p>グループ 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・導入の台詞が早口で子どもに伝わりづらいので、ゆっくり話すことを心がける。 ・子どもの前に立つ人は明るい表情と声のトーンを意識して指遊びや話をする事。 ・曲前の導入で演技をする際は、棒読みにならないよう感情をこめて演技する。 ・指遊びもメインの歌も、声が届いていないので全員で元気よく、はっきりと歌詞が伝わる様に歌うと盛り上がる。 ・人形がよく見えるように動きは大きくゆっくり見せてほしい。 ・特に箱に入る所の動き等が単調になりやすいので、人形によって回転させたり高さを変えたり背景に寄せたりし、メリハリやバリエーションをつけて動かす。 ・おもちゃ箱の装飾をもっと可愛らしくする。 ・この曲のタイトルでもある「チャチャチャ」という踊りのリズムが感じられようにピアノの弾き方や楽器などで工夫して欲しい。 ・1番の動きが単調であるため、工夫が必要である。 ・全体的に同じ調子で歌っているため、5番は曲をゆったり遅く落ち着いたテンポで演じてみては。 ・絵人形が多いため、出し入れしていると一つ一つをゆっくり見れない。特に子どもが初見でみると印象に残らない可能性があるため、曲のテンポを落とすと良い。 ・人形が重なって見えない物がある。 ・導入前に指遊びをするとグループ1、2との流れが断ち切られるため、すぐに演技に入ってはどうか。 ・指遊びをするならチャチャチャに結びつけたものに変更するなど関連性を持たせる。 ・導入の演技に人物が出てくると舞台の非現実的な曲の世界観が損なわれるため、台詞だけで演じてみてはどうか。 ・上手・下手に書割を置くと舞台の線引きができるため、箱と人物をその境界にしてはどうか。 ・チャチャチャというリズムを手拍子するなど工夫を加える。 ・おもちゃ箱の設置する場所を中央でなく、端(下手側)に寄せると人形ももっと大きく動かせる。 ・動きが小さくなる要因として、絵人形の棒の長さがあるため長いものに変える。 ・透明の棒だと手が透けて見えてしまう。木製のものに変えては。 ・曲の始まりや終わりは言葉ではっきり伝えた方が良い。 ・おもちゃ箱の中身を装飾し、おもちゃは実物より平面など自分達で制作した物を作る事。

表5 実践1を終えて 他グループからのコメント

グループ	制作物について	導入と全体の構成について	絵人形の動かし方や演じ方について	子どもたちの反応から
1	<p>○背景のちぎり絵が良かった。</p> <p>○手が動くようになっていて、歩いている/走っている動きがリアルに感じられた。(8)</p> <p>○登場人物以外にも木や家、背景などを作っていて、場所のイメージがしやすい。</p> <p>○絵人形が見やすい大きかった。</p> <p>●貝殻のイヤリングは身に付けた後、はけるのではなく付けたままが良いと思う。</p> <p>●背景はもう少し大きくても良い。</p>	<p>○明るく元気に話している。(2)</p> <p>○声をはきはきとしていて、大きく、聞きやすかった。(3)</p> <p>○子どもたちの声に臨機応変に対応して良かった。</p> <p>○いきなり歌い始めるのではなく、お話になっていて歌の内容が楽しめた。(3)</p> <p>○導入で話に出てくる人形をお友達として紹介し注目させていた。(4)</p> <p>●冒頭で幼児たちに「森へ行こう」と促していたが反応が薄い為、楽しい森と伝わるやり取りを加えたら良いのではないか。(2)</p> <p>●もう少し舞台の真ん中で導入の話をしたら良かった。</p>	<p>○子どもの反応や言葉に対する対応がきちんと出来て良かった。</p> <p>○歌の時の動きが楽しそう良かった。</p> <p>○子どもに問いかけながら演じている。</p> <p>○話している人形は動き、話していない人形は止まっているのでイメージしやすい。</p> <p>○言葉と音楽、動きが合っていた。(2)</p> <p>○お嬢さんの人形が振り返ってまた逃げるという動きで追いかけてこの場面を表現出来ていたのが良かった。</p> <p>○追いかけてこの様子が伝わった。</p> <p>●もう少し大きく動かしても良い。(2)</p> <p>●会話している動きがあったら良かった。</p> <p>●追いかけてこの場面をゆっくり見せても良いと思う。</p> <p>●動きのバリエーションが欲しい。(3)</p> <p>●貝殻のイヤリングが浮いてた。</p> <p>●動きが少し大きすぎたり早く感じる所があった。(特に導入)</p>	<p>○一緒に歌っていて(輪唱)楽しそう。(2)</p> <p>○色々な反応が返ってきていた。(1)</p> <p>○テンポが良く子どもたちも歌いやすそうであった。(2)</p> <p>○予想外の反応もあったが上手に対応していた。(3)</p> <p>●追いかけてこの場面で子どもが先に歌い始めていたので初めに一声かけても良いと思った。(1)</p> <p>●子どもの反応にもっと対応した方が良いと思った。</p>
2	<p>○色をはっきりして見やすかった。(2)</p> <p>○細かく作っていた。</p> <p>○マスクをした後に表情が変わる仕掛けが良かった。(3)</p> <p>○動物に合わせた仕掛け(羽を動かし飛んでくる、池から出てくる)があって楽しめた。</p> <p>○マスクがフェルトで作られていて、リアルだった。</p> <p>○学生間の発表で一度見た時よりパネルが落ちない工夫が出来ていた。</p> <p>●全体的にもっと大きく作っても良いのでは。</p> <p>●木などが少し小さいと思った。</p> <p>●白いマスクが黄色のふき出し上の上のっいて見えにくかった。マスクを縁取りした方が良い。</p>	<p>○明るくはっきりと話したので良かった。(3)</p> <p>○沢山歌えて良い。(2)</p> <p>○お話をしながら一度歌っているのが、最後に皆で歌を歌う時、歌いやすいと思う。</p> <p>○子ども達と一緒に演者がマスクを探していた。</p> <p>○風をひいたときにマスクを着けるというテーマをお話を通して分かりやすく伝えていた。</p> <p>○明るく、子どもたちの意見も取り入れつつうまく対応していた。(3)</p> <p>○歌のテンポもゆっくりで歌詞も聞き取りやすかった。</p> <p>○声のトーンや表情が良かった。</p> <p>●少し間延びして長く感じた。(2)</p> <p>●最後の場面で全ての動物を舞台に出したままの方が違和感がないと思う。</p>	<p>○鶴やカバの登場・退場の仕方が面白かった。(5)</p> <p>○色々な音が使われて良かった。</p> <p>○リス以外の動物もセキやくしゃみをしながら出てきた方がいい。</p> <p>○2回目に歌を歌う際、振付をしながら歌っていたので良かった。</p> <p>○子どもたちの前で絵人形を出したり、見せたりとパネル舞台を超えた所で動きをしてとても活動的だった。</p> <p>●登場する時に、絵人形がただ置いただけになっていた所があった。</p> <p>●人形を置く位置をもう少し工夫できると良いと思った。</p> <p>●最後、一斉に動物が出てくる時配置を決めていた方が良いと思う。もう少しバランスよく見やすい所に置いて欲しい(3)</p> <p>●もっと人形との対話があってもお話に入り込めると思う。</p> <p>●カバの水音の効果音はあまりイメージ出来る音ではなかった。</p> <p>●登場する時にもっと動物らしい動きをつけると良い。</p>	<p>○子どもが演者の問いかけに答えていたり、マスクと一緒に探したり参加出来ていたのが良かった。(5)</p> <p>○何度も歌う事で子ども達も大きな声で歌えていた。(2)</p> <p>○しっかりパネルシアターの方を向いて楽しみなが集中していた。</p> <p>○最後にもう一度歌う事で「見る事・歌う事・話す事」を楽しんでいた。</p> <p>○2回目の歌で演者の細い、長い、などの身振りを真似て一緒にしていた。(3)</p> <p>●子どもの中にはソワソワして落ち着かない様子の子もいたので、話し方に強弱をつける等して注目させても良いのではないかと。</p> <p>●始めにセキをして始めているが、「コンコン」という言葉を変えたらいいと思う。動物と勘違いしていた。(2)</p>
3	<p>○朝から夜の場面の切り替えがあって歌の流れに合っていた。(4)</p> <p>○制作物が細かく作ってあって良かった。</p> <p>○おもちゃ箱が立体で、開いたり閉じたりするしかけも面白く工夫していた。(4)</p> <p>○おもちゃが工夫されていて、裏表作られていた。</p> <p>○色合いがはっきりしていること、仕掛けが良かった。見ていて驚く所が多々あった。(2)</p> <p>●パステル調の色が多い人形や細かい所が少し見えにくい気がした。</p> <p>●おもちゃ箱を少し大きくしても良い。</p>	<p>○導入で何を歌うのか伝え、チャチャのリズムの取り方を教えており期待感や楽しさも増した(4)</p> <p>○導入から歌まで繋がっていた。</p> <p>○導入は笑顔でハキハキと大きな声で話していたので良かった。(2)</p> <p>○導入で準備が出来たかを「もういいかい」とやりとりすることで、子どもの期待感が高まると思った。</p> <p>○始めと終わりを物語にすることで世界観をイメージしやすい。</p> <p>●話のテンポをもっと落とした方が子どもも理解しやすく入りやすい。</p> <p>●導入後、演じるまで間があるので曲をかけると楽しく待てると思う。</p> <p>●導入は子どもをもう少し注目させてから始めても良いと思った。</p> <p>●声だけで冒頭は演じていたが主人公の絵人形があった方が分かりやすかったのではないかと。(2)</p> <p>●子どもに近づき話す方が良い。(2)</p> <p>●話は表情を豊かにすると良い。</p>	<p>○人形ごとの動きのバリエーションが豊かで、生き生きとしていた。(2)</p> <p>○絵人形を大きく動かして良かった。</p> <p>○最後におもちゃが勢いよくおもちゃ箱に帰る所が面白かった。</p> <p>○クルクルと動く際に裏表が作られて良かった。</p> <p>○交差したり回転したり色々な動きがあった。</p> <p>○歌と人形がしっかり合っていた。</p> <p>○音や登場するものの特徴を捉えて見やすと思う。</p> <p>○動きがゆっくりで見やすかった。</p> <p>●絵人形の動きのパターンがもっとあると良い。</p> <p>●大きく動かすこと。</p> <p>●ページが重なってる所があり見えにくかった。</p>	<p>○ページサートを見ながら歌ったりチャチャチャで手を叩いている子どもがいて、お話の世界に入り込めていた。(7)</p> <p>○おもちゃを指さしている子どもが多くて注目しやすい雰囲気作りが出来ていた。</p> <p>○導入での準備できているかの掛け合いが良かった。(2)</p> <p>○実際に楽器を使ったり、子どもにも手拍子してもらったりして盛り上がっていた。(2)</p> <p>●少し短いので物足りないと思った。</p>

※工夫・良かった点=○ 改善点=●、()は人数

パネルシアターとペープサートの指導法についての考察

表6 実践1・2を終えて一各グループへ保育士からの意見

グループ	実践	良かった点・工夫点	幼児の反応から	改善点
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい発表だった。歌も園児が知っている曲なのでのりやすかった。(2) ・制作物の色使いがはっきりしていて見やすかった。 ・伴奏の速さがゆっくりで聞きやすい上、動きも見やすい。 ・季節的にも園で歌っている曲で親しみが持てて良かった。 ・絵がとても綺麗でキャラクターがとても可愛いかった。(2) ・制作物が丁寧に作られ良かった。 ・導入を担当された方の話し方が上手だった。(2) ・歌に合わせた人形の動かし方で8の字に動かしていた所が印象的だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな子ども(0.1.2歳)も楽しんでいた。 ・子どもたちが自然と手拍子をしたり、輪唱したりしていた。 ・手足が動くペープサートで、子どもたちもよく見ていた。 ・1.2歳児も体を揺らしてよく見入っていた。 ・子どもたちの反応も良く、話し手の声も聞き取りやすかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イヤリングを目立つように作るが良い。 ・歌の学生さんも手拍子をするのもっと楽しい雰囲気が出てきそうだと思う。 ・一緒に森のくまさん歌ってね、等一言があるのもっと子供たちが歌ったかもしれない。
2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・フェルトで絵人形が作られているのが新鮮でよかった。園でも取り入れてみたいと思った。 ・子ども達の反応を取り入れながら、進めており、掛け合いができていたのがよかった。(2) ・歌い始めの「さんはい」という合図があって歌いやすかった。 ・マスク屋さんという発想が面白かった。 ・丁寧に制作物が作られていた。 ・色んな動物が登場し、子どもが興味津々であった。(2名) ・季節的に風邪をひきやすいため、季節に応じたテーマで良かった。 ・前作品との繋ぎがあって良かった。 ・細かな説明があるシアターで分かりやすく見やすかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達は出てきた動物をよく覚えていて歌も上手に歌っていた。 ・口を開けているリスが始めに出ていたので、マスクが探しにくいようであった。少し小さめに描いた方が子どもが見つかりやすかった。 ・BGMの効果の色々とあり、子どもたちが楽しんで見ていた。 ・パネルの後歌を通して歌いやすかった。 ・大人から見ると面白い糸引きのしかけも、子どもから見ると他の部分に手を加えた方が良いと思った。 ・年齢の高い子はすぐに分かり、楽しんでいた。 ・マスクの歌を子どもが知らないかも、と感じた。 ・1.2歳の小さな子どもが出てきた動物を指さし、動物の名を言ってよく見ていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ぞうはもっと大きく、他の動物も大きさの差がもっとあると面白いと思った。 ・マスクの大きさも差をさらにつけると分かりやすかった。 ・他にももっと沢山のマスクを置いていても良かった。選ぶ楽しさが出てくるかもしれない。 ・鶴を知っている子ども達が少ないかもしれない。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・動物が登場する時の曲が一つ一つ違っていたり、効果音も取り入れるなど、より楽しく見れて、引き付けられた。 ・動物を歌うタイミングが合わなかった時「さん、はい」の合図があり、歌いやすかった。 ・途中でピアノのタイミングを変えるなど臨機応変な対応が素晴らしかった。 ・子どもと対話しながら話を進めていた事で、子ども達も楽しく集中していた。 ・動物の表情が変わった所が良かった。 ・「誰のマスクかな？」と子ども達の想像を掻き立てる進め方だった。 ・動物の絵が可愛らしかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達と対話しながら楽しくお話を進めていたので、皆楽しく集中して見ていた。 ・どの年齢の子どもも楽しめる内容であった。 ・慣れ親しんだ歌をパネルシアターという別の視点で楽しむ事が出来、喜んでいて。 ・学生さんの様子をよく見ている子どもも、落ち着いた様子の子もいた。 ・様々な動物が出てきて興味を持って見ていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもへの問いかけがやや単調。間の取り方と子どもとの会話を工夫すると良い。 ・本園では小さいマスク、大きいマスクと音程を変えて歌っている。小さい所は高く引く等工夫を試みては。 ・緊張からか歌声が小さかった。歌を楽しく歌うと更に良かった。
3	1	<ul style="list-style-type: none"> ・背景の変化など楽しめる工夫が見られた。 ・制作物が細かい所まで丁寧に作ってあり、良かった。 ・絵がとても綺麗だった。 ・導入から楽しい雰囲気が感じられました。学生の笑顔が素晴らしかった。 ・リズムカルな曲に合わせておもちが次々に出てくる所が良かった。 ・おもち箱が面白い仕掛けになっていた。(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・色使いがはっきりしていたのでよく見ていた。 ・1.2歳児もリズムにのり、手拍子していた。 ・どの演目でも、導入の人や子どもの前に入る人は、緊張して大変だと思うが和やかな笑顔を投げかける事で子どもたちもリラックスすると思うので気を付けて欲しいと思った。 ・子ども達がとても楽しんでいた。 ・後ろの壁面が変わる所が嬉しそうであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラミネートが光って見にくかった。 ・ペープが横一列に並ぶ事が多かったので、色々と工夫したら良いと思った。 ・後ろで歌っていたので声がこもっていた。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩も鮮やかで「おもちのチャチャチャ」の「物語」を見ているようであった。 ・賑やかなペープサートで曲の雰囲気が伝わってきた。 ・制作物がとても丁寧に、豪華に作られていて、始まる前から期待感が高まった。 ・絵人形の工夫が素晴らしく歌に合わせて楽しく見れた。 ・キャラクターに合わせて動きを変えているのが良かった。 ・手拍子を取り入れる工夫も良く楽しそうだった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが食い入るように見ていたと思う。 ・「もう終わり？」という声が聞こえたが、楽しかったのでまだまだ見たかったという思いなのだと思う。 ・ダイナミックな作り物で、子ども達にも分かりやすく、楽しく見ていた。 ・知っている曲なので手拍子して喜んでいて。(2) ・参加しながら見れたのが良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鈴やタンバリンを使っても良い。(2)

※()は人数

表7 実践1・2を終えて -保育士からの評価-

質問1			歌の大きさや聞き取りやすさ			
グループ	曲目	実践	丁度良い	声が小さい	聞き取りにくい	未記入
①	森のくまさん	1	4	0	1	1
②	こんこんクシャン	1	6	0	0	0
		2	3	1	0	1
③	おもちゃのチャチャチャ	1	5	0	1	0
		2	5	0	0	0

※グループ2の発表を見る事が出来なかった為未回答

質問2			台詞や導入の話す声の大きさと聞き取りやすさ			
グループ	曲目	実践	丁度良い	声が小さい	聞き取りにくい	未記入
①	森のくまさん	1	5	0	0	1
②	こんこんクシャン	1	5	0	1	0
		2	2	2	0	1
③	おもちゃのチャチャチャ	1	4	0	0	2
		2	5	0	0	0

質問3			話し方			
グループ	曲目	実践	丁度良い	少し遅い	少し早い	未記入
①	森のくまさん	1	5	1	0	0
②	こんこんクシャン	1	6	0	0	0
		2	3	0	1	1
③	おもちゃのチャチャチャ	1	6	0	0	0
		2	4	0	1	0

質問4			歌のテンポ			
グループ	曲目	実践	丁度良い	少し遅い	少し早い	未記入
①	森のくまさん	1	6	0	0	0
②	こんこんクシャン	1	6	0	0	0
		2	4	0	0	1
③	おもちゃのチャチャチャ	1	4	0	0	2
		2	5	0	0	0

質問5			人形の動き			
グループ	曲目	実践	丁度良い	少し遅い	少し早い	未記入
①	森のくまさん	1	6	0	0	0
②	こんこんクシャン	1	6	0	0	0
		2	3	1	0	1
③	おもちゃのチャチャチャ	1	4	0	0	2
		2	5	0	0	0

質問6			人形の大きさ			
グループ	曲目	実践	丁度良い	大きい	小さい	未記入
①	森のくまさん	1	6	0	0	0
②	こんこんクシャン	1	4	0	1	0
		2	4	0	0	1
③	おもちゃのチャチャチャ	1	4	0	1	0
		2	5	0	0	0

※動物の大小差をつけてほしい1
※箱を大きくしないと現実味がない1

質問7			制作物の完成度			
グループ	曲目	実践	良かった	普通	あまり良く なかった	未記入
①	森のくまさん	1	4	2	0	0
②	こんこんクシャン	1	4	2	0	0
		2	4	0	0	1
③	おもちゃのチャチャチャ	1	5	1	0	0
		2	5	0	0	0

質問8			制作物から曲の雰囲気伝わったか				
グループ	曲目	実践	十分 伝わった	伝わった	あまり感じられなかった	感じられなかった	未記入
①	森のくまさん	1	3	2	0	0	1
②	こんこんクシャン	1	4	2	0	0	0
		2	2	2	0	0	1
③	おもちゃのチャチャチャ	1	4	2	0	0	0
		2	4	1	0	0	0

質問9			絵人形の動き					
グループ	曲目	実践	丁度良く 見やすい	バリエーションがあった	少ない 単調	速い	小さい	未記入
①	森のくまさん	1	3	0	1	0	0	0
②	こんこんクシャン	1	4	0	1	0	0	0
		2	2	2	0	0	0	0
③	おもちゃのチャチャチャ	1	3	1	1	0	0	0
		2	1	4	0	0	0	0

質問10			子どもが楽しめる配慮や工夫が見られたか	
グループ	曲目	実践	見られた	見られ なかった
①	森のくまさん	1	6	0
②	こんこんクシャン	1	6	0
		2	4	0
③	おもちゃのチャチャチャ	1	6	0
		2	5	0

質問11			特にごから配慮や工夫を感じたか				
グループ	曲目	実践	絵人形の 動き	発表全体の 流れ・構成	制作物の 造形やしかけ	話し方 歌い方	未記入
①	森のくまさん	1	3	2	1	0	0
②	こんこんクシャン	1	0	2	4	0	0
		2	1	1	2	0	1
③	おもちゃのチャチャチャ	1	1	3	1	1	0
		2	0	1	4	0	0

※1 名複数回答